

『おかげさまとありがたい話』



新年明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年も一年間、皆様のお力をおかりして多くの課題を乗り越えてくることができました。有難うございました。年も申（さる）年から酉（とり）年に移り、元気な、でも人を思いやる心優しい子どもたちを育てていきたいと、職員一同心を一つに努力して参ります。

さて、昨年12月の月曜朝会で次のような話をいたしました。

今日は、毎年今頃になると話す『おかげさまとありがたい』というお話をします。

もう10年以上も前に亡くなられた方ですが、お元気だったら、今一番会いたいおじいさんがいます。そして、12月くらいになると、このおじいさんのことを思い出します。わたしがまだ八成小学校にいた頃、よく校長室に訪ねてきてくださいました。

この方は、いつもお会いすると、「おかげさまでね・・・。」「・・・、ありがたいことだよ。」という言葉が口癖で、いかにもありがたそうに優しくお話しをなさる方でした。

おかげ様でいい天気。おかげ様で大根が大きくなった。おかげ様で元気でいられる。

おかげさまで・・・。おかげさまで・・・。ありがたい、ありがたい。

こんなふうに、いつもいつもお礼を言っているようにみえますが、このおじいさんは決して人のお世話になっている人でも、人に助けられてばかりいる人でも、ありません。いえいえ、それどころか、逆に人のことをいつも心配して、いつも人の手助けをして、どんな人でも困っていればその人の相談にのり、一緒に悩み、自分のできることは何でもやってあげる。自分のことだけもいそがしいのに人のことを先にやってあげる。そんな、おじいさんなのです。それなのに、いつも「おかげさまで・・・。」いったい誰のおかげなのでしょう、むかし誰かに助けられたのでしょうか・・・。いえいえ、そうではありません。このおじいさんは、いつも人に感謝する気持ち、ありがたいという気持ちを忘れない人なのです。誰かのおかげで、自分は元気で幸せにすごすことができる、「ありがたい ありがたい」と、思える人なのです。

「おかげさまでね、孫の書いた習字がね、廊下に張り出されているのでね、見させていただきまますよ、ありがたいことに先生がよろしく

見ていて、励ましてくれてるんでしょねえ。孫がうちで、先生がほめてくれたって言って大喜びですよ、おかげさんでこれまで苦手だった習字が大好きになっちゃった。おかげさまですよう。ありがたい、ありがたい。」

そして、そんなどんなことでもありがたいと思う感謝の気持ちがあるからこそ、近くに困っている人がいれば、黙ってその人のために精一杯のことをして助けてあげられるのです。それも「当たり前でしょう。」「お互い様ですよ。」といいながら。

ですから私もこのおじいさんとお会いすると、思わず「おかげさまで・・・。」という気持ちになり、どんなことでもお手伝いさせてもらいたいな、という気持ちになるのです。

ところが、ね。桃五小の教室を回って、オープンスペースからそっと見ていると、ありがとうとかおかげ様とかの反対言葉。「どうせ」「のに」「でも」「だって」、の人がけっこうたくさんいるのが、とても悲しいのです。

「どうせぼくなんか……。」とすねてしまったり、「こんなにがんばっているのに……。」と言い訳をしたり、いつも手助けしてくれている友だちに向かって「でも、〇〇ちゃんだって僕のこと押したもん。」と叩いてしまったり、「だって、お母さんが……。」と、自分のことは反省もせず人のせいにしてしまったり……。自分のことは反省もせず、いいわけばかり。こんなことでは、悪いところをなおすこともできないですね。

人は皆、誰も一人では生きていけません。気づかずにいるだけで、どこかで必ず誰かに助けられているのです。けれどもそのことを感じる心、「ありがたいと思う心」「おかげさまと思う心」いつの間にか忘れていませんか。

さてさて、皆さんは「おかげさま」「ありがたい」と思ってまわりの人に感謝してすごし、新しい年を迎えることができるでしょうか。

それとも逆に、自分の失敗や悪いことは人にせいにして、「どうせ、のに、でも、だって」と思って人のせいにしていいわけばかりしてしまうのでしょうか？どちらでしょう。今年の終わりの月、12月に改めて「今年1年間の自分」のことを考えて、新しい年を迎えましょう。

こんな気持ちで本年も子どもたち一人一人を大切にしていきたいと存じます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

